

野菜・花きの営農情報

《9月中旬～10月中旬の技術対策》

令和元年9月15日発行
第5号
空知農業改良普及センター本所
Tel：0126-23-2900
Fax：0126-22-2838

【全作物共通】

- ① ハウス等施設は、台風や大雨に備えて周囲の排水対策やハウスバンドの締め直しなど、風雨に対する備えに常時留意して下さい。
- ② 農薬の使用に当たっては、使用基準を守りましょう。
- ③ 今後、最低気温が一桁台に低下する場合もあるので、施設栽培では夜間の保温に留意して下さい。
- ④ 野菜・花きは適期収穫と選別の徹底に努め、出荷物の品質を維持しましょう。
- ⑤ 野菜・花きは排水対策を行い、収穫後は有機物の施用に努めましょう。

【野菜（果菜類）】


作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
ミニトマト	<ul style="list-style-type: none">・気温の低下とともに、着色の遅れや裂果が増えます。夕方は早めにハウスを閉め、最低気温15℃以上を確保しましょう。	<ul style="list-style-type: none">・トマトサビダニ、斑点病、灰色かび病、うどんこ病などの発生がみられます。換気による除湿に努めましょう。
きゅうり	<ul style="list-style-type: none">・夜温の低下とともに、つるの伸長や果実肥大が緩慢となっています。早めにハウスを閉め保温に努めましょう。・つるは放任とします。・適宜かん水や追肥を行い、果実肥大を促進させましょう。	<ul style="list-style-type: none">・褐斑病、べと病、うどんこ病等の発生ほ場が見られます。・病害虫の発生状況に留意し適期に防除しましょう。
かぼちゃ	<ul style="list-style-type: none">・収穫の目安は花梗部にひびが入り、果皮の表面が堅くなってからです。・キュアリングは風通しの良い、直射日光の当たらない場所で行いましょう。直射日光に当たると短時間でも日焼け果が発生しやすくなります。	<ul style="list-style-type: none">・キュアリング中に腐敗した場合はつる枯病に罹病していた疑いがあります。次年度作付けに向け、ほ場の排水対策などが必要です。 
いちご	<ul style="list-style-type: none">・いちごは、乾燥、過湿に弱い作物なので、朝の葉つゆの状況を見ながらかん水を行いましょう。	<ul style="list-style-type: none">・灰色かび病やうどんこ病が発生しています。初期防除に努めましょう。・ハダニ類、シクラメンホコリダニの発生に注意し、発生初期防除に努めましょう。

写真 つる枯病罹病果実

【野菜（葉茎菜類）】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
たまねぎ	<ul style="list-style-type: none"> 粗選別は機械の処理速度を抑え、腐敗球が混入しないように慎重に選別しましょう。 収穫が終了したほ場では、排水対策に努めましょう。 	
露地ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> 収穫が遅れると首部の締まりが悪くなるため、適期収穫に努めましょう。 収穫の終了したほ場には堆肥等の有機物の補給に努めましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> べと病、葉枯病、さび病が発生する時期です。 アザミウマ類の発生が依然多い状況です。 病害虫の発生状況に応じて薬剤を選択し適期防除を行いましょう。
アスパラガス	<ul style="list-style-type: none"> 来春の収穫量を確保するためにも水分不足には注意しましょう。また、ハウス被覆、かん水等の管理は出来るだけ長く行いましょう。 ハウス立茎栽培では、夜温15℃以上の確保に努めましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ヨトウガの発生の多い時期です。若齢幼虫のうちに防除を行いましょう。 茎葉の養分を効率よく根に転流させ、来春の収量を確保するため、斑点病、茎枯病の防除を実施しましょう。

【花き】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
花き類	<p>〈温度管理の目安〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 9月中旬を過ぎると、日によっては生育適温を下回ります。品目により、ハウスをこまめに開閉し温度管理を徹底しましょう。 適夜温例： SPカーネーション 10～12℃、 スターチスシヌアータ 8～10℃、 オリエンタルユリ 15～18℃。 <p>〈その他管理〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の農作業と重なる時期ですが、適期収穫を目指し収穫遅れや切り残しのないようにしましょう。 加温作型では、加温機等の点検整備を早めに行いましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ほ場観察を行い、アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類、オオタバコガの発生が見られる場合は、防除を実施しましょう。 気温の低下にともない、施設内を保温するため多湿となります。灰色かび病等の病害が発生しやすくなるので、除湿管理を心がけるとともに、殺菌剤でのローテーション防除を行いましょう。

★農薬を使用する場合は、必ず使用基準を守りましょう★